

編集後記

1995年(平成7年)3月に、帯広の森20年史「帯広の森～私たちと帯広の森づくり～」が発行されてから、はや10余年が経ちました。

本書は、その10年余りの間の帯広の森づくりを振り返って、次のステップへつなげるきっかけになればと、まとめたものです。

本書では、植樹祭と育樹祭を中心に、関係する「データ」をまとめました。盛りだくさんの内容だった20年史に比べると、必ずしも十分とは言えませんが、どうかお許し願いたいと思います。

この10年余りで、森の成長とともに、風物詩だった植樹祭や育樹祭が終了するなど、私たち市民や帯広の森を取り巻く環境もずいぶんと変わりました。これからさらに10年後、帯広の森はどんな森になっているでしょうか。私たちと帯広の森との関係はどうなっているのでしょうか。

そんなことを考えながら本書をまとめていると、課題と向き合いながら、豊かで楽しい森、まちを目指して実践する多くの市民の姿が浮かび上がってきます。

これこそ、30年以上にわたる帯広の森づくりを通じて培われてきた、私たち市民の気持ちと力なのだと思います。今を生きる私たちは、先輩たちの意思を確かに受け継いでいます。そして、未来の子孫たちへしっかりと引き継いでいくこともできるはずです。

10年後の市民が、自分たちの足跡を再び顧みたとき、改めてそのことを認識できるよう願ってやみません。

(事務局)

編集後記～余録

20世紀から21世紀へと人類史の頁がめくられました。今、1997年京都議定書に象徴されるように、地球環境の変化が声高に語られ始めています。

地球が太陽系の中に誕生して46億年ともいわれ、人類がこの地球上に創造されて500万年ともいわれていますが、人類が文化と文明を持つことによって、この地球上の生態系の王者として存在して約5千年といわれています。

1883年(明治16年)、約2千人のアイヌ民族が自然に抱かれて生活していたこの十勝の大地に、大和民族が移住してきました。以来124年、今この十勝の大地(約10,800km²)に36万人余の人が生活しています。

江戸時代までの鎖国を幕藩体制の柱として統治していた日本が、近代的文明を積極的に取り入れ、帝国主義体制へとダイナミズムに変化し、また、1945年(昭和20年)の大東亜戦争の敗戦を機に、現代民主主義体制へと大きく変容した時代が、十勝開拓の歴史的背景としてあります。

わが十勝の地域経営は、この130年余、文明に重きを置いた経営戦略をもって展開されました。しかし、日本で戦後の混乱期から成長期を迎えるにあたり、様々な価値が存在し多様化するようになってきました。

このとき、帯広市長であった故吉村博氏が、1970年に「帯広の森」を提唱しました。

私は、「帯広の森づくり」を十勝における文明と文化の止揚する場所として考えてきました。法治国家として官僚システムが機能している日本では、日本国憲法のもと、文明による地域経営が概して完全に機能し、十勝においても満足のいく経営がなされてきました。

しかしながら、十勝においては、文化の醸成がかなり手薄になったと思います。

文化とは、その地域に住む人々の日々の営みにあると思います。すなわち、温暖湿潤な稲作文化を営みの基調にした日本の中であって、十勝という地域は、気候的には亜寒帯に属し、年間降雨量900mm前後のドライゾーンにあります。このことを日々の生活の基調とした生活ぶりを一度じっくりと考え、そして行動する。そんな場所として「帯広の森」を位置づけてきました。

大東亜戦争敗戦62年を経て、世界は、日本はIT革命をして新たな歩みを始めました。これは、人類が「火」をもった第一次生活革命、「蒸気機関」をもった第二次生活革命に匹敵することかもしれません。

このことを念頭において、十勝に住む人々が「帯広の森」に関わることを期待していきたいと思います。

私事ながら、この4月で60歳というひとつの節目を迎えます。まさに、団塊の世代として、戦後の日本を良くも悪くも体現してきました。これからも、「帯広の森」に関わって生きたいと思っています。「帯広の森づくり」を通して、豊穡の大地・十勝が、日本に冠たる人間の住む大地として誇りの持てる十勝人を、育てる場所でありたいと考えます。

なお、この記録誌をまとめるにあたっては、帯広市の三浦拓君の力によるところが大きいことを附して、感謝いたします。

帯広の森市民植樹祭実行委員会
帯広の森市民育樹祭実行委員会
事務局長 山田 英和

帯広の森 私たちと帯広の森づくり Vol.2

編集・発行 帯広の森市民植樹祭実行委員会
帯広の森市民育樹祭実行委員会
〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地
帯広市役所緑化環境部公園と花の課内
電話：0155-24-4111（代表）

発行年月 2007年3月

印刷所 東洋印刷株式会社
〒080-0020 帯広市西10条南9丁目7番地
電話：0155-23-1321